

## PROGRAM

鐘がなります ..... 山田耕筰  
 赤とんぼ ..... 山田耕筰  
 中国地方の子守歌 ..... 山田耕筰  
 初恋 ..... 越谷達之助  
 庭の千草 ..... アイルランド民謡  
 モーツアルトの子守歌 ..... モーツアルト  
 ロンドンデリー(ダニーボーイ) ..... アイルランド民謡  
 マッティナータ(朝の歌) ..... レオンカヴァッロ  
 忘れな草 ..... クルティス

カロミオベン ..... ジョルダーニ  
 すみれ ..... スカルラッティ  
 霧 ..... レスピーギ  
 溜息 ..... レスピーギ  
 理想の人 ..... トステイ  
 4月 ..... トステイ  
 柳の歌 ..... ヴェルディ 歌劇「オテロ」より  
 トゥーレの王様 宝石の歌 .....  
 グノー 歌劇「ファウスト」より

インタビュアー 寺田順子

# 四季のコンサート 秋

平成3年9月26日㈭ 6:45  
 浜松市民会館ホール  
 主催：浜松音楽友の会

受賞。二期会会員。  
 「1986年ヨーロッパ大賞」  
 日本で1972年、「アーチャーの騎士」のリハーサル  
 一大作公演再演。  
 天才」「天才」と。多くの大成功を収め、1991年秋  
 1989年12月12日、イトー国立劇場にて「藤々  
 世界の歌劇祭にて出頭し、賞を受賞した。  
 ド、ハーネット、エドワード・スコット、モーリス・  
 ブラームス、マリヤ・シルバ、マリヤ・シルバ、  
 ブラームス等を初め、各地の歌劇祭にて出頭。又、日本  
 歌手ノ「名物賞」を受賞。以後、多くの国内外にて

「マリヤ」「アーチャー」の名で世界を周遊。  
 ハーネット、1972年、ローラン立陶宛にて「ナゲルス  
 ナゲルス」にて公演。同年秋、モーリス・シルバ、  
 ブラームス等の歌劇祭にて出頭。1988年秋、モーリス・シルバ  
 1989年、ローラン立陶宛にて「ナゲルス」にて公演。  
 決定特別賞等の特別賞を受賞。  
 日本芸術院賞、日本音楽院賞、日本音楽院賞。1965年、毎  
 年最も優秀な卒業生。1968年秋、モーリス・シルバ  
 ドナ・スコット、1971年秋、モーリス・シルバ  
 1972年秋、モーリス・シルバ

松本美和子 (Makoto Matsumoto)  
 ピアノ 久邇之宣



松本美和子ソプラノリサイタル

ピアノ 久邇之宣

## 日本歌曲

- ◎山田 耕筈（1886～1965）は、東京音楽学校（芸大の前身）声楽科の出身で、おもに声楽の分野に重要な足跡を残した。特に歌曲に貴重な作品が多く、本格的な日本の藝術歌曲は山田耕筈によって開始されたと言われている。
- ◎越谷達之助（1909～）は、東京音楽学校師範科を卒業。「初恋」は、ABAの3部形式で書かれた、素朴な美しさに満ちた曲で、歌詞は石川啄木の短歌《砂山の 砂にはらばい 初恋の 痛みを遠く 思い出する日》が反復して用いられている。

## アイルランド民謡

- 「庭の千草」は、ドイツの作曲家フロトーが1847年に作曲したオペラ『マルタ』の第2幕で歌われてから有名になった。
- 「ダニー・ボーイ」は、アイルランド北部の港町ロンドンデリーで歌われていた「ロンドンデリーの歌」としてもよく知られている民謡であるが、最近では1913年に作詞された「ダニー・ボーイ」が使われることが多い。
- 2曲とも旋律的に6度の音程で跳躍する箇所が特徴的である。

## ドイツ歌曲

- ◎モーツアルト（1756～1791）はオーストリア出身の作曲家であるが、古典派のドイツ歌曲の代表者のひとりでもある。しかし、「モーツアルトの子守歌」として世界的に親しまれてしまったこの曲は、実際にはフリースという医者が作曲したものであることが証明されている。

## イタリア歌曲

以下の曲目は、必ずしも今夕の演奏順ではなく、作曲家の年代順に並べてある。

- ◎スカルラッティ（1660～1725）  
「すみれ」は内気なすみれと野心家の青年の望みを対照的に歌った曲。イタリア古曲歌曲の代表作の一つ。
- ◎ジョルダーニ（1753頃～1798）  
「カロ・ミオ・ベン（恋しき君）」はイタリア古典歌曲の中でも特に親しまれている作品。
- ◎トスティ（1846～1916）  
「理想の人」は失恋の歌。「四月」は愛の季節を歌ったもの。トスティは親しみやすい歌曲を多く書いた作曲家。1870年以降はロンドンで活躍するようになり、1906年にはイギリスに帰化してしまう。
- ◎レオンカヴァルロ（1857～1919）  
「朝の歌（マッティナータ）」は恋の歌。オペラの作曲家である彼の作品の中では、数少ない歌曲のひとつであり、現在でもよく歌われるイタリア歌曲の秀作。
- ◎レスピーギ（1879～1936）  
「霧」は寒々とした自然を歌った曲で、イタリア現代歌曲の代表作のひとつ。そのほか今夕歌われる「ため息」を含め、彼は数十曲もの歌曲を書いた。

## オペラからの抜粋曲

以下の曲は歌曲ではなく、オペラの中から抜粋されたものである。

- ◎ヴェルディ（1813～1901）  
アリア「柳の歌」は、イタリアの作曲家ヴェルディが1886年に作曲したオペラ『オテロ』の第4幕で、死を予感したデステモーナがわびしく歌うイギリス民謡風の美しい調べである。
- ◎グノー（1818～1893）  
バラード「トゥーレの王様」は『むかし王様は妻に先立たれて……』、カバレッタ「宝石の歌」は『ああ！私はなんて美しい……』と歌っていく。この2曲は、フランスの作曲家グノーが1859年に作曲したオペラ『ファウスト』の第3幕で、マルグリートが歌う曲である。なお、バラードとは物語風の歌のこと、カバレッタとはオペラの中で歌われる短い歌の形式名のひとつである。

## 久 遇 之 宜 プロフィール

（く ゆき のぶ）

国立音楽大学ピアノ科卒業。伴奏法を小林道夫氏に師事。ウィーン国立音学院に留学し、ローベルト・ショルム氏に師事。当地で幾多の演奏会、さらにはORF（オーストリア国立放送）の音楽番組などに出演。帰国後数多くの声楽及び器楽演奏者と共に演し、好評を博している。また、合唱音楽にも興味を持ち、東芝EMIの「日本の合唱音楽シリーズ」には、ピアニストとして参画している。